

令和4年度（2022年度）の基金活用事業の概要と成果

令和4年度 熊本県官民協働海外留学支援事業（担当課：企画課）

将来の熊本地域の発展に貢献するグローバル人材を育成するため、県内大学生等4名に対し、実践的な海外留学のための奨学金、授業料、往復渡航費等を助成しました。4名は昨年8月から順次それぞれの留学先に渡航し、県産品の販路開拓やメディア研究等のテーマに取り組みました。

海外研修の内容

	氏名	所属	留学先(テーマ)・留学期間
1	ミヤモト シノスケ 宮本 慎之助	熊本県立大学 2年生	イギリス（ジビエの研究）約6ヶ月
2	オツカ ユナ 大塚 優菜	熊本県立大学 2年生	カナダ（県産品販路開拓）約3ヶ月
3	ヤスナガ マアヤ 安永 真彩	熊本大学 4年生	イギリス（社会・心理の研究）約6ヶ月
4	ゴウハラ ネ 郷原 寧々	熊本大学 4年生	カナダ（メディア研究）約6ヶ月

助成対象者の声

・熊本、日本におけるジビエの需要がイギリスの10年前の状況と類似していることを踏まえて、熊本のジビエの将来の姿を探るために留学しました。

留学を通じた学びに加え、改めて熊本を海外から見つめ直すことで、熊本が素晴らしいところなんだと気づきました。

今後は、留学経験を活かして熊本のジビエを世界に発信する第一人者を目指して頑張っていきたいと思います。

・熊本県産のお菓子を海外に広げるべく、カナダでマーケティング学習や熊本県産のお菓子のプロモーションを行いました。

海外でのインターンシップ体験等は自分を成長させる機会がたくさんありました。今回の経験を踏まえて、今後も熊本に貢献できる人材になれるよう精進していきたいと思います。

貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。

・国民のチャリティー活動状況が世界トップレベルであるイギリスで、チャリティーショップのスタッフとして約5か月間勤務しました。また、現地法人の会議に出席し、自分の意見を発信する責任を肌で感じる体験もあり、成長できたと感じています。

熊本にあるボランティア団体が課題としている運営費用等の経済的な問題や、若者のボランティア意識の低さ等を解決するために、チャリティー意識が当たり前に根付いているイギリスの文化を発信することによって、熊本でもチャリティーが身近となる社会の実現に貢献したいです。

・熊本地震や新型コロナウイルス感染症による影響で減少した観光客数を増やす手段として、SNSによるマーケティングが効果的であると考え、海外でのSNS運用について学ぶために、多民族国家であるカナダに留学しました。

現地企業でのインターンシップでSNS運用を学ぶとともに、アンケート調査を通して、自ら新しい環境に飛び込んで試行錯誤することで、自分自身の内面的な成長も感じる事ができました。

今後は留学経験を踏まえて、SNSやインターネットを通じた発信・宣伝を行うことにより熊本県と海外をつなぐ人材になれるように努めていきます。

